

# 響流

HIBIKI

高田教区報

高田教区 第13次教化委員会テーマ  
私はどこで生きているのか  
～たずねよう 真宗の教えに～

2020年4月28日 第148号



## 真宗の法灯を守り続けるために

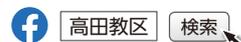
今年は、新型コロナウイルスが猛威を振るい、全世界が恐怖に陥っているため、いろいろな研修会等が延期、または中止となっています。

去る、3月12日は今の東本願寺再建のための献木を運搬中、尾神嶽中腹で大雪崩に遭った子どもを含む27名の尊い命が犠牲になった日です。

第12組を中心とした地元では、どんなに時代が変わろうとも殉難者の意を永遠に守りつづけていきたいという願いを込めて、このご命日に報尽碑までの雪中参拝（今年で15回）を続けています。

今後も殉難者の意を忘れることなく、真宗の法灯を守り続けるために報尽碑への参拝を続けていきたいと思っています。

（文筆） 八木 孝美氏



高田教区

検索

発行所 真宗大谷派（東本願寺）高田教務所  
上越市寺町2-24-4 ☎025-524-3913  
<http://www.takada-kyoku.jp>

発行 橘 秀憲

印刷 永田印刷株式会社

## とくどけんしゅう会にさんかして

第二組 善正寺 上宮 咲希

私は今まで、うちのお寺の行事で正信げをみんなで読んでいました。今回の七回のとくどけんしゅう会では、せっぷの読み方など教えてもらったので、これからはもっといいに読むようにしたいと思います。

夏に京都の本山でとくど式を受けるといふことなので、次回の一日けんしゅうでも、色んなことを学びたいと感じました。



## 得度研修会に参加して

第十一組 本教寺 喜多山 香奈

今回、得度研修会に参加させて頂いたのは、ご縁がありお寺に嫁いだので声明等を少しでも早く学び身に付けたいとの思いからでした。

声明は、初めて練習するので本当に難しかったです。節符や鑿の作法を覚えることだけでなく、発声の仕方からとても悩みました。

また、全七回の研修会での講師の先生方のお話は、何も知らない私にとって毎回興味深いものでした。仏教の始まりや、得度することの意味、合掌の仕方といった基礎的なこと等勉強になりました。

考査は緊張し、なかなか練習通りとはいきませんでした。五月に行われる一日研修も集中してしっかり学びたいと思います。

ご指導いただいた皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。これからも精進して参ります。

法語ポスター

念仏は

請求書

ではなく

領収書である

米澤英雄

高田教区同朋会議を終えて

2019年12月5日(木) 於：高田別院お食堂

3年ぶりとなる「教区同朋会議」を開催し、50名の方が参加した。

第1部では、教区教化委員会を通して感じたことを6名からの発題提起と質疑応答を行った。

第2部では、意見交換会をワークショップの手法を使い、教区教化事業を進めるにあたり、①ご門徒からお寺に求めていること（求められていること）と、②お寺からご門徒に求めていること（求められていること）を各人が確かめる場とした。ワークショップの内容と結果について示しますが、是非、各組や地域などで「話し合い・聞き合う機会」を共創・共学の視点を持って実施していただきたいと思えます。お寺は誰のため何のためのものかを考えていくのも、寺族だけではできません。日頃の同朋の会や研修会、また報恩講においても、法要と講義で終わるのではなく、どのように聞いたのかを、座談会・茶話会・お斎などで確かめていかれるのでしょうか。

意見交換会 ワークショップ 其の1

○「ご門徒からお寺に対して」を考えてみましょう！

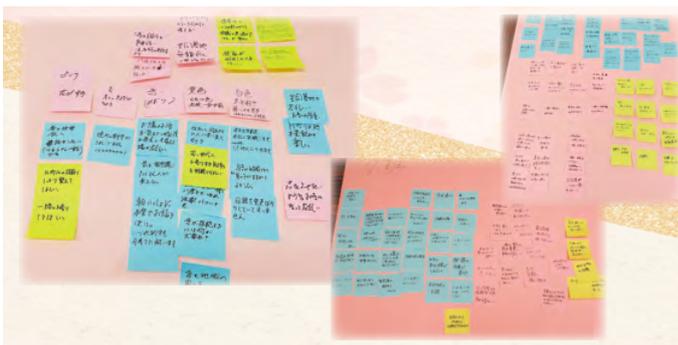
お寺…ご門徒からお寺に対して言われたこと  
ご門徒…ご門徒からお寺に対して言いたいこと

主なご意見（付箋の内容・青色）

- ・法話が難しい、短くしてほしい
- ・法話を聞いてほしい、お経の意味が知りたい
- ・月忌参りをきちんとしてほしい、午前中にしてほしい、時間を守ってほしい
- ・坊さんは偉そう、頭をさげしてほしい、住職が何もしない

皆さんで意見交換しました！

- ・こんな内容なら行きたい！
- ・これなら面白そう！ためになる！
- ・お寺の人に望むことは？ 他



10班に別れて各班で意見交換し、分かりやすく付箋に書き出しました。良い意見、厳しい意見、色々ありましたが、今後の参考になって良い機会でした。

※青色がワークショップ  
其の1の意見。  
※ピンクがワークショップ  
其の2の意見。  
※黄色がワークショップ  
其の3の意見。

## 意見交換会 ワークショップ 其の2

○「お寺から門徒に対して」を考えてみましょう！

お寺：お寺から門徒に期待すること

ご門徒：お寺から門徒に期待されてそうなこと

主なご意見（付箋の内容・ピンク）

- ・寺へ来てほしい、お参りにきてほしい、お朝事を一緒に参ってほしい
- ・寺族ともっと関わってほしい、気軽に話しがしたい
- ・世代交代をしてほしい

皆さんで意見交換しました！

- ・誰に来てもらいたいのか？
- ・どんなことを知ってもらいたいのか？
- ・ご門徒に望むことは？ 他



## 意見交換会 ワークショップ 其の3

○気づいたことを確認しましょう！

お寺とご門徒

自分が思っていたこととの違いはありませんか？

主なご意見（付箋の内容・黄色）

- ・寺族と門徒のコミュニケーションをとること、すれ違いも多い
- ・同じ目線や受け手目線をもって接すること
- ・お寺は門徒のもの、寺をもっと使う機会を増やす
- ・寺族と門徒で一緒に創りあげること

皆さんで意見交換しました！

- ・気づいたこと、今後の課題 他



### 参加者の主な意見

ワークショップを実施した感想・気づき

- ①門徒としての意見を聞けて良かった。地域以外の寺院の状況や門徒の交流でワークがあれば良い。お互いが気づき改める部分がある。
- ②日頃の研修会は受け身であるので、自ら発信できる場として有意義だった。
- ③他の座談会などにもワークショップを活用できたらと思う。普段の座談会より盛り上がった。

### 参加者の主な意見

教区同朋会議について

教区教化事業に対する要望

- ①役職者だけではない場を設けてはどうか。
- ②他の部門が何をしているのか、文章だけでは分からない点も多いので、話しあえる場が今後必要。
- ③門徒とのコミュニケーション・共通認識を取ることで、丁寧な葬儀にも繋がる。

特集

寺院クローズアップ

法林寺本堂落慶

本堂落慶までには多くの御苦労があったことと拝察する。法林寺御住職 砺波康範氏にお聞きした。



一、砺波山法林寺の略歴

元々は北陸にあったが、寺町へ移る。

創建 明暦元年（1655年）

本堂 1792年 大地震後、本堂再建

1925年 寺町大火後、瓦葺に改修

教化 法語揭示、五忌参り（修正会、春・秋彼岸、お盆、報恩講）、御磨き、

同朋の会

二、本堂落慶に至るまで

(1) 10年前から始まった

10年ほど前から、総代役員と集まって、「どうしようかね」ぐらいの話をしていた。それが、具体的になってきた頃、息子に先立たれ、中断の話も出したのですが、皆に励まされまして。

また、総代役員4名全員が、建替のためにちょうどいいメンバーでした。2名は、今回の施工業者の清水組の方と知り合いで、建設関係に詳しい。他の2名は公務員あたりで、書類作成、出納計算に長けていた。

(2) ありがたい声かけ

一番有難かったのは、私がとても言えな

いようなことを、総代さんが言ってくれたことでした。「もう一口、出してくれない」と

年始などで、来る人来る人に、「もう一口」と声をかけてくれた。お婆ちゃんに、「おまん幸せなんだね。こんな時に巡り合わせて。普通は、金出したくても出せないんだから」って。

(3) 新しい本堂を拝見

○欄間の裏



昔のままの状態を、わざと残している。

○廂の曲線



清水組の社長が見込んだ、名立の船大工の作。木造船の舳先の要領で。

ぶら下がっているのは、風鐸。



東本願寺の様な屋根が良かったが、それだと、雪が後ろの真宗寺さんに落ちる。また総代さんにも、正面がこういうお寺もあると言われ、こうなった。

今から20年ほど前、何かの折に、私が「自分は兼職なので、本当は専業でやれるお寺であればいいのになあ」と言ったら、糸魚川のある御住職に、「それはちよっと違うぞ」と言われたことがあった。「兼職ならば、檀家と関係ない社会と接点ができる。飲み会で話もできるし、檀家でなくても寺の行事に呼ぶことができる」と。



(取材 法隆・松野)

今回取材して、「本当に、寺が寺であるのには、建物じゃなくて、御門徒さんとの繋がり、信心でしょうから。」という御住職の言葉が印象的であった。

#### ○屋根の向き

#### (4) 狭い境内の悩み

アで、今回、廊下を付けた。

○向拝 天逝した御当院さんのアイデア

○彫り物 砺波・井波からのもの。



一目で、各部の名称が分かる。

#### ○屋根の構造の看板

#### ○内陣の三連横並び

後門こうもんがない構造。江戸時代以前は、これが普通の内陣だとお聞きしたこともあり、今回、建替前と同様の三連横並び構造にした。

#### ○建築期間2年

境内に作業する場所がないため、初めに境内の十数基の墓石を移動させねばならなかった。それが平成28年10月。そして、竣工は平成30年12月である。

真宗寺さんにも、樹木を抜かせてもらったり、本当にご迷惑をおかけした。

法林寺では、どこかへ出かけていく移動同朋会がある。そういう同朋会や勉強会に、兼職だからこそ知り合えた人が、檀家でも門徒でもない人までもが来てくださる。そういう人にも、総代さんは「縁があったこうなっているんだから」と募財への声をかけてくれる。

まあ、そんなこともあって、20年も経ったけど、糸魚川のその御住職が言われたのは、そういうことだったんだなあ、今回いろいろ分かりましたね。

\*

## 聞思学場だより

### 「聞思」するということ



七組 淨善寺

関 隆徳

2017年から参加させていただいている聞思学場第四期も、最終である三年目となっています。思えば当時、大学から自坊へ帰って数年が経っても、まだまだ僧侶としての自分の生き方に不安を感じる日々の中で、もっと学びの場に身を置きたいという気持ちから参加を決めたのが、この聞思学場でした。

聞思学場第四期では『仏説阿弥陀經』についての講義を、井上円先生よりいただいています。私にとって

は普段から読誦する機会の多いこの經典ですが、自分が普段いかに深く理解しようとせずに読んでいたのかを、講義を受ける中で感じました。

特に、一つ一つの語句の意味の理解というよりも、何のためにそれが書かれているのか、何を伝えるために書かれたのかをもっと理解していくべきだということを、聞思学場の講義の中で教わったように思います。

講義の中で井上先生は、『仏説阿弥陀經』がどのような人たちに向けて説かれたのかを注意して読むべきである、と繰り返しおっしゃっていました。

お釈迦様がその当時、生きるのに苦しんでいた人たちの前で説かれた教えを、現代に生きる私がどう捉えるのか。どこか知らないうちに自分

とは無関係に思いながら經典を読んでいるのではないか。經典と自分の向き合い方を考えさせられたように思います。

聞思学場に参加させていただき、その名の通り「聞く」こと、そしてそれを皆で「思う」ことによって、今までの自分にはない気付きや学びをたくさんいただきました。学場の初めの講義の中で、「聞思」というのは自分の考えや思いの中に自分とは違う物差しを受け入れ、身につけていくことだというお話がありました。自身の生き方に迷う日々の生活の中で、「聞思」すること、真宗の教えという物差しを自分の中に入れて歩んでいくことを、今後も大切にしたいと思います。





## 愚僧のつぶやき

〈真宗の葬儀編⑧〉

枕荘りが整いましたら、お手次には遺骸ではなく、ご本尊に向かって勤めるものであります。亡き人が生前お育て頂いた阿弥陀様に、今生最後の御礼のお参りをするという意味がある訳です。

又、帰敬式を受けていない場合は、この時にお手次に、おかみそりをしてもらい、法名を頂きます。この法名と似ているものに、他宗で用いる戒名があります。法名も戒名も本来は生前、帰敬式という儀式を受けて、仏弟子としての名乗りとして頂くお名前ですが、その意味する所は天と地ほどの違いがあります。戒名とは、様々な戒律を守ることを約束する人に与えられるお名前であり、

ある意味、立派な人に与えられるお名前です。それに対して法名とは、戒律を守るどころか、自分の心さえも、どうにもならないと泣く様な愚かな人に無条件に与えられるお名前です。

親鸞聖人は、生涯ご自身を愚禿釈親鸞と名乗ってゆかれました。この名乗りこそが、法名のお心なのでありましょう。親鸞聖人はそのお心を非僧非俗というお言葉で表しておられます。当時、僧を名乗るには国の許可が必要でした。ですから、念仏弾圧により僧の身分を取り上げられ、越後へご流罪となった親鸞聖人にとりましては、文字通り「僧に非ず」であつた訳です。でも同時に、俗に非ずとも仰います。日々の生活に追われ、真の幸せを仏教に求め伝える事をやめた者ではないと。

ただ、親鸞聖人が釈の字を名乗ら

れたのは、ご自身を、「欲も多く、怒り、腹立ち、そねみ、ねたむ心多く暇なくして、臨終の一念に至るまで、とどまらず、消えず、絶えず」と仰います。そんな私を救わんと阿弥陀様はご苦労され、南無阿弥陀仏という名号となり、「我をたのめ、必ず救う」と呼びかけて下さっていると慶んでお念仏してゆかれた事です。

ですから、浄土真宗の法名とは、仏弟子となった自分を誇る名乗りではありません。何の資格もない者が、何の資格もないままに、阿弥陀様から、「仏弟子よ、我が子よ」と呼ばれ、与えられたお名前であり、拝んで名乗らせて頂くものであります。

ペンネーム 維摩教信





## おまんた きなせや

### 高田別院俳句の会

日時 毎月20日  
13時30分より

選者 藤原 哲  
(ホトトギス同人・日本伝統俳句協会新潟県会長)

会場 高田別院

参加費 500円

持ち物 筆記具

※季節(季語)の語る日本の四季を味わいましょう。

### 『響流』表紙写真募集

『響流』の表紙を飾る写真、絵画等を募集します。

応募いただいた中から編集委員会において選考させていただきます。

問い合わせ、応募先は  
高田教務所まで

### 新型コロナウイルス 感染防止に向けて

このたび、法要(葬儀・法事等)における新型コロナウイルス感染症の感染防止に向けての宗派指針が取り纏められました。内容は宗派ホームページ又は教務所からのお知らせをご参照ください。感染拡大防止に向けてご門徒や有縁の皆さまと十分にご相談いただき、対応ください。



### 世界の文化を宗教から学ぶ 「松田ゼミ」

講師 松田 慎也氏  
上越教育大学名誉教授

偶数月は高田会場  
奇数月は吉川会場

時間 19時～

参加費 1000円

申込み・問合せ  
・真宗寺 淀野 壮介  
090-8017-6402

### 講演録発刊しました

2012年度同朋会議・2017年の高田教区御遠忌第7組お待ち受け大会における講演録を発刊しました。講師は、高山教区の四衢 亮氏です。是非、お求めください。

講演録 1000円

※高田教務所にて販売しております。



### 『響流』ご意見、ご感想

『響流』に対するご意見、ご要望をお聞かせください。より多くの方に手に取っていただける教化報発行を目指して皆様のご協力をお待ちしております。



### あなたも利用しませんか？

組、寺院、有志で開催されている学習会、行事等の告知、募集スペースとしてご利用いただけます。

『響流』は年間3回  
4月、8月、12月に発行予定です。

掲載希望の方は高田教務所にお問い合わせください。

### 緊急企画！

## 東本願寺出版 書籍100冊プレゼント！

お好きな一冊をお届けします！



新型コロナウイルス感染症拡大に伴う東本願寺出版の緊急企画！

詳細は「宗派ホームページ」をご参照ください。



じいさんと伝えられ！掲示板



岩崎 英宣 氏

専敬寺  
新潟県上越市安塚区小黑1212

1. 掲示板はいつからされていますか？  
1987年から㊤バス停10カ所に掲示していたので、その少し前からと思います。
  2. 掲示内容はどれくらいの頻度で変更されていますか？  
毎月はじめ
  3. 掲示板の法語、言葉はどのように選ばれていますか？  
専敬寺カレンダーの言葉
  4. 掲示伝道における思い、工夫などをお聞かせください。  
当寺の参道では読んでくださる方が限られるので、上越、妙高地区6カ所のバス停にポスターを貼ってもらっています。
- 「子どもやご年配の方の目線に合わせて、あえて低く法語を掲示してもらっている」という御住職の話が印象的でした。

(山崎)

● おくやみ申しあげます

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

- 第4組 持専寺住職 梅澤 勤
- 第8組 善巧寺住職 森 信順
- 第12組 徳生寺前坊守 八島シズエ

● おめでとうございます

◎ 住職就任

- 第5組 寶善寺 横山 英一

◎ 教師補任

- 第1組 光照寺 梅澤 未有
- 第4組 敬音寺 白銀 顕
- 第5組 信光寺 春日 了
- 第6組 長徳寺 望月 陸
- 第6組 西光寺 豊島 貴子
- 第7組 敬覺寺 舟見 尚登
- 第7組 勝樂寺 池永 蓮
- 第8組 入光寺 龍池妃都美
- 第8組 浄音寺 高山 福子
- 第12組 徳藏寺 田村 暁史
- 第13組 恵光寺 上野 隆史

改装に伴う休館のおしらせ

この度、池の平青少年センターは宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年、立教開宗八百周年慶讃事業として施設の耐震改修工事を行うことになりました。つきましては左記日程の通り休館となりますのでお知らせいたします。

皆様にはご不便、ご迷惑をおかけいたしますが何卒ご理解を賜りますようお願いいたします。申し上げます。

◇期間

2020年8月21日から11月30日まで

※休館中のお問い合わせ先

高田教務所 025-524-3913

こもれび

先日、親戚の葬儀に参列した。その時の御住職のお話。

「仏教には『帰浄』という言葉がある。人生には良いこと、楽しいことばかりではなく、辛いこと、苦しいことがいっぱいある。それでも、なんとか人生を全うして、浄土へ帰って行かれる。二十数年前、葬儀の折、ある方に『どのようなお気持ちでお念仏を』とお尋ねした。その方は一呼吸置いて、こう答えられた。『尊き方をお見送りするための念仏。』久しぶりに胸が熱くなった。

ひとつの言葉、ひとつのしぐさが、人の生き方を変えることがある。読み進める本のワンフレーズが、いきなりページから立ち上がって来ることがある。二十数年前、御住職の生き方を変えたひとつの言葉。葬儀、法要、あるいは毎日のお勤めがいつのまにかルーティン化していた私に、そのお念仏の精神が、御住職から確かに手渡された気がした。(松野)

